

平成 24 年度

3 月定例会

一般質問全貌

(岡本議長) 休憩前に引き続き会議を再開します。一般質問を許します。1 番前住孝行議員。

(前住議員) はい。皆さん、こんにちは。

( ) こんにちは。

(前住議員) 傍聴席の皆さん、インターネット中継でご覧の方々、お疲れ様です。1 番前住孝行です。本日は町長の 67 回目のお誕生日ということで、まずもってお祝い申し上げます。良い議論にしたいと思いますのでよろしく申し上げます。今シーズンは氷ノ山スキー場のイヌワシゲレンデからスノーピアへのアクセス道が開通して、たくさんの方がイヌワシリフトを利用され、氷ノ山のスキー場のそれぞれのコースを楽しんでおられることは、とても喜ばしいことです。また、1 月 21 日よりキッズルームの設置で、小さいお子さんがおられる家族もスキーを楽しめる環境づくりがなされたことで、今後噂が広がって利用が増えることと思います。個人的に県外の 2 つのスキー場に行ってきました。どちらのスキー場も同じように子どもに配慮した環境作りがしてありました。1 つ目はちびっこ広場といったネットで囲んだ安全なソリスぺース、もう 1 つは、ちびっこゲレンデとキンダールーム、ドイツ語と英語の組み合わせでキンダーが幼児でルームは部屋ということなんですけど、というような建物もありました。氷ノ山のすぐできることとして、ちびっこ広場のようなスペースができれば、さらに良くなると思います。ディズニーランド式に毎シーズン発展させていって、リピーター確保に努められればと思います。

それでは、通告させてもらっています 5 項目の件について質問させていただきます。

## 平成 22 年、23 年度の町内陳情状況について

まず、平成 22 年、23 年度の町内に関する陳情で完了していなかったものの進捗状況についてお尋ねします。平成 22 年 6 月の氷ノ山スキー場の冬期間における諸問題に関する陳情、平成 22 年 9 月の屋堂羅川稗田山ノ神橋付近護岸基礎修復に関する陳情等 4 件、平成 23 年 6 月の上水道設置（防火施設の整備）を求める陳情、平成 23 年 9 月の屋堂羅神護地区の山斜面町道に接する部分の土砂防止網の設置に関する陳情は現在どのような状況なのか、お伺いします。

（岡本議長） 答弁を求めます。小林町長。

（小林町長） はい。先程、前住議員の質問でございますけども、平成 22 年 6 月、9 月、平成 23 年 6 月、平成 23 年 6 月、平成 23 年 9 月の陳情に対する現在の状況でございますけども、平成 22 年 6 月、1 点目は氷ノ山スキー場の冬期間における諸問題、22 年 9 月は 2 点目の屋堂羅稗田山ノ神橋付近護岸基礎復旧、小畑下付近の護岸の嵩上げ及び河床掘削、中村地区の急傾斜対策、屋堂羅移動通信鉄塔整備に伴う管理道路の町道編入早期実現、平成 23 年 6 月の 3 点目の上下水道設置を求める、それから平成 23 年 9 月の屋堂羅神護地区の山斜面町道に接する部分の土砂防止網の整備の状況はどうなっておるかということでございますけども、まず初めに、22 年 6 月の氷ノ山スキー場の冬期間における諸問題についての陳情でございますけども、言ってみれば氷ノ山スキー場のイヌワシゲレンデとスノーピアゲレンデを結ぶアクセス道の整備につきましては、議員ご承知のとおり今年度スキー場オープン前に整備をして利用していただいております。スキーヤーからは非常に好評をいただいておりますような次第でございますし、それからまた氷ノ山スキー場の冬期間における諸問題に関する陳情のもう 1 つは、町営駐車場からスノーピアゲレンデの入り口までの間凍結しにくい歩道の設置をしてもらいたいという要望に対しては、車道部をアスカーブ

で仕切り、流雪水の遮断をすることで歩道の確保をしました。

また駐車場からアルパインゲレンデまでについては、流雪溝と機械除雪を行っておりますので、要望には対応済みでございます。

2点目の屋堂羅川稗田山ノ神橋付近護岸基礎復旧に関する陳情については、昨年5月に仮復旧し、現在3月末完成を目途に本復旧工事を施工中でございます。今年度中には完成をいたします。また小畑下付近の護岸の嵩上げ及び河床掘削、中村地区の急傾斜対策に対する陳情は昨年鳥取県に要望してまいりましたが、事業採択とはなっておりません。引き続き平成24年度も要望することにしております。それから、屋堂羅移動通信鉄塔整備に伴う管理道路の町道編入の早期実施についての陳情でございますけれども、検討しましたが非常に難しい面もございますので、当面は鉄塔道路の管理道として管理することにしております。

3点目の上水道設置防火水槽の整備を求める陳情については、米川の水量調査や概算事業費の算出など、若桜簡易水道との統合も視野に入れながら、基本計画案を作るのに必要となる資料を作成中であり、まだまだ時間を必要とします。4点目の屋堂羅神護地区の山斜面町道に接する部分の土砂防止網の設置に関する陳情は急傾斜地対策として鳥取県に要望してきましたが、事業採択とはなっておりませんが、引き続き平成24年度も県に対して要望してまいりたいと思っております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。詳しく教えていただきありがとうございます。氷ノ山の駐車場からゲレンデまでの陳情ですけれども、アスカーブで仕切って入らないようにということなんですけど、何かまだ、なかなか上手に水が流れないような状況があったりしてしまっていて、ある方から散水方式、他の場所でもしてあるようにしてもらえたらいいのになんていうよう

な声もありましたので、またそういったことも考えていただけたらなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。本当は自治会長等などには説明がなされていると思うんですけど、なかなか変わっていない状況のことでは住民まで伝わっていないというようなことがありましたので、ちょっと文章で残るように質問させていただきました。今後もこの陳情の経過についてということに関しても、議会だよりでもいいですし、町報でもいいと思いますし、広報できたらなというふうに思っています。

## 電線埋設について

次に、宿内の環境整備についての1つ目です。まずは電線の埋設についてです。今年は若桜祭りの大祭の年です。前回初めて櫛を担がせてもらいましたが、本当に残していかななくてはならない行事だなと感じました。そのときに何度も止まって神輿を下げて電線をかわすのです。その度に盛り下がってしまいます。また、屋根の雪下ろしをするときにも、どうしても邪魔になることがあります。なるべく電線にかからないように気をつけるんですけど、やっぱり屋根の先の方になると、放らずにそのまま落とすことになってしまって、電線に当たってしまうことが多くあります。もう電線が切れはしないかと冷や冷やすことがあります。それと、なんととっても観光面でせっかく来ていただいたお客さんに、若桜のすばらしいまち並みをすっきりと見てもらいたいと思います。秋に視察研修に行かせてもらった島根県大田市の石見銀山大森地区は埋設してありました。とてもすっきりしているので、まち並みを十分に堪能させていただきました。予算もかかることになるとは思いますけど、午前中でもあったように、文化財保護法の関係や景観法に基づく国の補助金というのがあるそうなので、まずそこから取りかかってはと思います。このことについての所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。先程の前住議員の答弁でございますけども、電線の地中化についてのお尋ねですが、電線の地中化には近いところでは鳥取市内で今行われておりまして、まち並みもすっきりしたという具合に思っておるところでございます。県道若桜停車場線の電線地中化について鳥取県にも問い合わせたところ、事業化は難しいとの回答もいただいております。その理由といたしましては、事業費が高額になることが一番大きな理由でして、電線地中化の事業は中電やN T Tから負担金を取って事業することになっているため、市街地などの採算が取れる場所であれば同意がもらえないとのこととございました。これらの状況を考えますと困難な事業と言わざるを得ません。しかしながら、非常に私は前住議員さんの質問については、非常に私は理解しておりますけども、現実にはやっぱり鳥取県も、N T Tや中電の負担金をもらってから仕事をするということになってまいりまして、そういうところがO Kが出ないとやれないということが現実でございます。そういう面ではまだまだ若桜ができるような段階にはならんんじゃないだろうかという具合に思っておるところでございますけども、本当にいい質問だと私は思っております。大きな雪が降る度に、私も上を見ながら、大丈夫だろうか、この光は切れないだろうかということも心配もしながら町を歩いて通るわけでございますけども、将来にはそういうことも、当然やっぱり考える必要があるではないだろうかということは思っております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。気持ちは共感してくださるようで、金額的な面が、やっぱり強いのかなというように思います。もし本当にできればなんですけど、まだ追加して思うのが、ドクターヘリとかが若桜はよく来るんですけど、そのときの発着地点っていうところら辺も、本当はしてもらえた

ら、迅速に病人、怪我人を輸送できたりするので、そういったことも何かできたらなと思ったんですけど、予算の関係ではしょうがないのかもしれませんが、本当にちょっと心の中に止めといてほしいなというふうに思います。

## 町営駐車場の整備について

では、次の質問に移りたいと思います。町営駐車場の整備についてです。宿内の路上駐車がもう大変多く、ひどいときは両側に停めてあって、車で通るのに本当に危険なことがあります。実際にも2件の事故があったということで、被害に遭われた方の1日も早いご全快を祈ります。先程の電線埋設にも関係するんですけど、電柱があるところに停めておられることが多いような気がしています。それで、町民の方からも、路上駐車、あれはどうにかせんといけんとと言われていきます。全く私も同感です。それで、住んでおられる方は、あんまり遠くに停められるというのが不便で、白線をはみ出さなかったらいいかなというふうなという思いがあるんじゃないかなと思います。そこで空き家を買って、町営駐車場を整備してはと思うんですけど、所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。宿内の路上駐車をなくするために、空き家を買って町営駐車場を整備してはどうかという問題でございますけども、宿内の公衆用駐車場の状況は、上から言えば親水公園、旧寄宿舍、役場、山田製材所の跡地、町民体育館の表、裏、旧中学校跡地、公民館、図書館、駅前、商工会横、道の駅、中之島公園、森林組合等があり、また小学校跡地も可能性もございます。駐車場の必要性については、誰のための駐車場なのかによって考え方が異なってくると思っておりますけども、買い物客、町外からの観光客のために、あるいは地域住民のための駐車場のさまざまな利用法について考える必要があると思いま

す。まず、買い物客ならば各商店、商工会が検討されるべきものだと思いますし、地域住民のためならば、それは各自家用車の所有者が確保しなければならない問題だと思います。しかし、町外からお出でになる観光目的の人のための駐車場となれば、これは必要であると考えますし、若桜町に来られた方には宿内をゆっくりと、くまなく散策していただき、田舎の良さを味わって帰っていただきたいと思います。

利用可能な駐車場を来町者にうまくお知らせする方法も、まず私はやっぱり検討してみる必要があるという具合に思っておりますし、町営駐車場として整備可能な場所があれば検討したいと思いますが、空き家を町が買って駐車場にすることまでは、今のところ考えておりません。

ただ、大切なことは、ドライバーのモラルが大切だと感じておりますし、以前は片側駐車とか、1ヶ月おきに駐車をするとか、そういうような経緯も、ずっと安全協会も町も取り組んでいる経緯がございます。しかしながら、何を言っても1番困るのは、地元の皆さんがたが一番言われることがあったりもいたしまして、現在、じゃあそれならいっそのこと、郡家署の方も駐車禁止止めましょうというようなこともあったりして、今のところフリーに来てというのが現実なんでございますけども、人の乗り降り、荷物の積み下ろし、積み込み等の停車は本当に十分にできるわけでございますし、長時間の駐車が私は問題だという具合に思っております。駐車場の新設よりも住民皆さんのモラルの高揚と、そういうところにも力を入れるべきではないだろうかという具合に思っておるところでございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。やはり私もやっぱりマナーの問題っていうのが、あるのかなというふうに思いまして、本当に、でも現実にある、路上駐車があるので、それはなんとか本当にしていけないと思います。そ

れで、やっぱり自治会長を通じて徹底していくとかっていうこともあると思いますので、本当は先程の電線埋設などができれば、そういったのもちよっと減ってくるんじゃないかなと思ったんですけど、マナーの向上になるのかもしれませんが、考えていきたいなというふうに思っているところです。

## 桜の名所づくりについて

では、3つ目の質問に移りたいと思います。桜の名所づくりについてです。若桜町という地名を大事にしたいという思いで、桜にこだわっていききたいと思うんですけど、若桜の木、桜は昭和43年に明治100年を記念して、桜を若桜町の木として選定されたそうです。いろいろなところに桜が植えてあるんですけど、若桜の桜の名所はっていうふうに言われても、皆がそれぞれ違った場所を言うんじゃないかなというふうに思います。それはそれで情報も集めて、それで今年はこの桜をPRしていこうとかっていうようなことでもいいと思います。それで、また、老朽化した桜が増えてきたように思います。保育所のあたりの桜や、若桜小学校のところ辺の桜も、かなり老朽化しているような気がしています。やっぱり管理もしていかないといけんじゃないかなというふうに思っているところです。そこで、若桜駅の周辺などとエリアをこう指定して、若い桜を計画的に整備して、次の世代に残していかないといけないのではないかというふうに思うんですけど、そのことについての所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。桜の名所づくりということでございますけども、若桜町の桜は、以前は小学校や中学校の周りに多くの桜の木がありました。それらの桜も老木となり、数少なくなっておりますが、若桜町の木として町民が桜を身近に感じ、大切にすることは大事なことであり、桜の木を次世代に残すことは、行政と住民が連携して行うことが必要である



と考えます。しかしながら、よく皆さんが若桜町は桜がない、ないと言われるんですよね。実は桜の開花時期に、若桜の鬼ヶ城に上がっていただいて、宿内を見ていただきたいと思います。大炊地区の土手に、すごく長い間、土手には桜がずっと咲いております。大変大きくなってまいっておりますし、それから若桜小学校、それから若桜小学校植物園の方の上手ですね。それから、若桜駅、若桜駅にも新しい桜をどんどんと、関西若桜会には植えていただいておりますし、それから中之島公園にも新しい若い桜がございます。それから旧森林組合の方にも、若い桜が周辺に植えてありますし、それからたくみの館、それから鳥取安泰、それから屋堂羅のお宮の前にも、鳥取若桜会が植えておられます。

本当に私は桜がいっぱい咲いておりまして、このような若桜地区をご存じないことは、少し残念にも思いますけどもですね、それぐらい若桜町の桜があるわけでございまして、本年度は池田小学校の校庭、それから中之島公園横の河川敷で桜の植樹も行いました。この中之島公園の河川敷の桜、屋堂羅川の方でございまして、あれはずっと下の方まで植えて桜の名所にしたいと、そのように思っておるところでございます。一度行ってみたいと思ったらと思っておりますけども、また平成 21 年度の若桜駅構内、23 年度には中之島公園に、関西若桜会が桜の植樹も行なっておられます。また氷ノ山氷太くんの周辺においても、桜の植樹を行っております。これは実はヤマザクラなんです。ヤマザクラはご存じのように、ちょうど5月の連休に、氷ノ山の辺で開花ということ。それから秋には、またこれが、葉っぱが紅葉するというようなことから、ヤマザクラがいいじゃないだろうかというようなことで、実は鳥取の方にもたくさん苗をいただいて植えたんですけども、実は2年程前には、5月の連休に植えまして、連休にちょっと水をやらぬにおりましたら、かなり枯れたというようなこともござ

います。氷ノ山というのは、やっぱり秋植えはいけないんです。春植えでしっかり夏や秋までに根を張らないと育たないと思っておりまして、昨年たくさんいただいておりまして、ちょうど伏せておりますので、また今年も、氷ノ山の方にもそういうものを植えて、連休にはヤマザクラがいっぱいというようなことも考えていく必要があるという具合に思っております。

そのためには、町は社団法人鳥取県緑化推進委員会若桜町地区の事務局として、若桜町内の緑化業務に携わり、緑の募金で集まった浄財を利用して、桜の植樹を初めとした町内の緑化運動にも支援をしていきたいという具合に思っておるところでございます。桜の植えるところがたくさんあれば、私たちが植えたいとは思っておるところでございますけども、若桜小学校辺りもまた、庁舎、学校なんかも撤去すれば、またそういう面でどういうふうにするかということも、これからも考えていかないといけんじゃないだろうかなとも思っておるところでもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。たくさん箇所があるのに知らなかったということですけど、本当にそうですね、宿内にこういったところがあるというのは、また紹介なんかも議会だよりでもいいですし、本当に皆さんにも知ってもらおうというのは、本当に大事だなというふうに思いますので、今言われたような箇所を、ちょっとまた見て回って、本当に皆さんにも知ってもらおうように私自身も頑張りたいなというふうに思います。これは桜に限らず、他のことにも言い換えることができるんじゃないかなというふうに思います。平成24年度の予算で、「若い」桜ということで、24年度で新規開業者への支援事業というのを考えておられるようですので、こういったことも、今後より拡大していただけたらというふうに思うところです。

## 豪雪対策について

それでは3つ目の豪雪対策について、質問させていただきます。1つ目ですけど、豪雪対策本部の設置についてです。本年度は平成24年2月2日に豪雪対策本部が設置されて、2月29日11時に解散されました。設置条件としては、何を目安にされているのかというのを教えていただきたいと思います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。豪雪対策本部の設置について、設置条件として何を目安にしているかのお尋ねでございますけども、現在見直し中の若桜町地域防災計画の中で、災害警戒本部の設置と災害対策本部の設置基準について定めることとしております。これまでは鳥取中央気象台が発表する気象情報に基づき、警報が発令された場合には警戒体制として、総務課と町土整備課など、災害に関係の深い職員が待機することにしておりまして、さらには災害の発生が想定される状況になれば、災害対策本部を設置して非常事態に備えることとしております。昨年と今年の豪雪対策本部の設置にあたっては、積雪の状況や気象予報を参考に設置したものであります。積雪が何センチ以上とか、条件を定めるよりも、状況判断をしながら適切に対応することが重要であると考えておるところでもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。どこかの集落の積雪量で判断されるのかなと思ったんですけど、そういうことじゃなく、状況ということですので。それで、2つ目の質問に入るんですけど、先日議会だよりを編集していて判明したのですが、雪下ろしの補助も豪雪対策本部が設置されたときということだったのを聞いて、ちょっとああそうだったんかと、後で思ったところです。それで、ちょっと日本海新聞の方から調べたんですけど、1月14日の時点で氷ノ山スキー場が2m、200cmと報道をされてい

ます。200 c m となったら、もう、それでも豪雪じゃないかなというふうに思うんですけど、そういった諸鹿や・米、落折など山間地の集落は少し考えてもらわないといけないなというふうに質問をしようと思ったんですけど、平成 24 年度の予算の詳細説明をしてもらって、それに見合うような何か事業があるようですので、ちょっとその辺を詳しくお聞かせください。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。まず最初に、雪下ろしのあっせんがございますけども、少し経過を説明させていただきたいと思っております。そもそも平成 17 年 12 月が思わぬ大雪となりまして、豪雪対策本部を設置させていただきました。積雪は 12 月末で宿内で 88 c m、そして、・米では 2 m 71 c m、271 c m を超える大雪となりさらに翌年 1 月中旬には宿内で 66 c m、・米で 320 c m を超える積雪でございました。このとき、本町では豪雪対策として若桜町建設業協会に民家の除雪の協力依頼をしたところであり、屋根の雪下ろしの希望者には全額個人負担ではございますが、建設業協会にあっせんした経緯がございます。そして、平成 18 年度以降も毎年 12 月に建設業協会に依頼するとともに、現在は建設業協会の他にも町内で雪下ろしをしていただける事業者にも依頼し、希望に応じて屋根の雪下ろしのあっせんを行ってきたところでございます。

このような経過を踏まえまして、昨年度からおおむね 65 歳以上の一人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦世帯などを対象に除雪経費の軽減を図るため、支援することとしたところでございます。昨年度は約 50 件、本年度は 2 月 2 日～2 月 29 日までに 15 件の希望がございました。これらにはすべて対応したところであります。希望者からは本当に喜んでいただいているところでございまして、また補助の対象とならない方へのあっせんも随時行っているところでございます。議

員の質問でございましたが、200 c mの積雪が豪雪かどうかは別として、今年度、豪雪対策本部を設置前に4、5人の方から屋根の雪下ろしについての問い合わせがあったことなども勘案すれば、私も補助の対象期間を豪雪対策本部設置期間に限定しない方がより安心して暮らせることにつながると考えているのでありまして、従って、新年度からは災害対策ではなしに、福祉の視点から取り組むこととして、高齢者に対するきめ細かなサービスとなるよう、高齢者福祉予算で措置しまして、豪雪対策本部の設置期間に拘らないように支援制度の見直しを行っております。

また、併せて引き続き建設業協会等に対しても協力を依頼することにいたしております。なお、本町は屋根の雪下ろしに伴う支援制度を創設したことについては、先導的な取り組みとして県や他町からの問い合わせをいただいたこと、また取り組みについて新聞でも報じられたことも申し添えておきたいという具合に思っておるところでございます。私たちも制度が悪ければ、疲弊しておれば、やっぱりそれはすぐ次の制度をまた少し検討をしてやっていくというのが一番大事なことだという具合に思っておるところでございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に、別に申し合わせたわけでもなく、同じようなことを考えていただいたというのは、すごいありがたいなというふうに思います。それで、もうこれは具体的なちょっと話になるんですけど、どのようなかたちで、そういったことになっていくのかなというふうに思うんですけど、例えば、民生委員さんから話が来て、そういうのをあっせんしたりとか、自治会長からの連絡があって、対応してあげたりするのか教えていただけたらと思います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) まだ、4月1日になっておりませんので、総務課長の方からちょっ

と答弁させますけども。

(岡本議長) はい。川戸総務課長。

(川戸総務課長) 総務課の川戸でございます。先程の屋根の雪下ろしに対する支援についてでございますけれど、ずっと以前から先程も町長が申し上げましたように、あっせんとかはやっていたんですが、支援については本年度が2回目、2年目ということでございます。それで、1つ気になっておりましたのは、議員、言われましたとおり、やっぱり地域によって雪の量が違うわけですし、やっぱり高齢者の方々が特に安心して過ごせる環境を考えれば、やっぱりその地域に合った捉え方をしないといけないといけんだらうと。従って、高齢者対策として、新年度から取り組むようにしておりますが、中味につきましては、今の制度を基本として、もう少し拡充した制度づくりを担当課の方にはお願いしようと思っているところでございます。以上です。

(岡本議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。ありがとうございます。では、3つ目の質問に移りたいと思います。本当に今年は大雪で、もう本当にある場所ではもう3回ぐらい屋根の雪下ろしをしたような状況だと思います。それで、本当に地域の支え合いだけではちょっともう追いつかない状況も生まれてきています。実際、家で雪をかいて、仕事場でも雪をかいて、それで、隣の家もとまではなかなかいかない状況かなというふうに思いました。また、障がいのある方の家族から「町道の家までの道も自分で重機を使って5、6万円でレンタルしてかいていたけど、もう私も歳をとったし、かなわんわ。」というような意見をいただいたりしています。他にも1日の屋根の雪下ろしを頼まれたそうなんですけど、12万円かかったというような話も聞きました。こういったことが原因で若桜町を離れる人もあるんじゃないかなというふうに思ったりしているところなんです。それで、本当にこの雪害に対しても他にも対策を考え

ていけないといけないのではないかというふうに思いますけど、所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。豪雪に対して他に対策を考えていかなければいけないと思うが、所見を伺うということでございますけども、本町にとって雪が多いことは、氷ノ山のスキー場や関連施設等にとって非常にありがたいことであり、本町の特性であると考えております。しかしながら、一方ではこの雪のため家の屋根の除雪を余儀なくされたり、また通勤、通学などにも支障を来すなどあまりうれしくない状況があることも事実でございます。第9次若桜町総合計画の中にもお示ししており、本町にとって、除雪対策は主要施策でございます。雪が降ると独居老人の方は寂しい、お話がしたい、誰か屋根の雪をかいてほしい、玄関に雪があって出られない、新鮮な魚が食べたいな、いろんな心配がございます。新年度は集落内での支え合い、助け合いなど、集落での活動に対する支援制度も創設することとしております。各集落でこの制度を活用するなどしていただき、雪の対策についても皆で助け合うなど、そんなまちづくりにつながってほしいと考えております。

何と言いましても、災害時には行政ばかりでなく、住民にも大きな義務も課せられていることも忘れないでいただきたいと存じますし、そして、議員からございました他の対策についてのお尋ねでございますけども、本町の除雪対策はずいぶん進んできており、県下でも誇れる除雪対策を講じていると思っているところでございますが、引き続き除雪作業を委託している事業者や関係機関との連携を強化し、本町の国道、農道、町道等を初めとするライフライン等も雪で寸断されることのないよう、取り組んでいかなければならないと考えておるところでございますけども、やはり一番大切なことは集落の中で皆が助け合っていくというようなこと、ここが一番大事なことでございまして、

先程言われました、ある方のところなんでございますけども、そういうところに個人に除雪車を役場から出せと言っても無理なことなんでございまして、そういうところにはやっぱり役場からちゃんとその集落にちゃんと貸し付けをし、その集落でやっぱり上手に使いこなしていただくということは十分に可能だという具合に思っておるところでございますので、その辺もまた個別にも相談もさせていただきたいと、そのように思っております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。この件に関してもちよっと、まだ24年度予算の方でもなんかちよっと使えそうな事業が考えてあるようでして、その質問はせん方がいいのかな。はい。まだ、はい、そうですね、なんかまたそういつたのに使えそうなことを考えておられるようですので、またそのときに質問させてもらえたらなというふうに思います。それで、いろいろ本当に政策を考えていかないといけないなというふうに思うんですけど、なかなか人的な不足というのは解消されんかなというふうに思っているところでして、そこは本当に考えていかないといけないところかなというふうに思うところです。

## スキーリフト地元学生シーズン券減免について

では次の、4つ目の質問に移りたいというふうに思います。ちよっとスキーリフト地元学生シーズン券減免についてです。1つ目として、過去2シーズンと今シーズン2月末までの若桜町内小中学生シーズン券購入件数と過去2シーズン、できれば今シーズンの2月末で若桜小学校、中学校とも500円割引、1日券の500円割引をしていただいているんですけど、その補助件数の動向についてお尋ねいたします。

(岡本議長) 答弁を求めます。植嶋教育長。

(植嶋教育長) はい。過去2シーズンと今シーズン2月末までのリフトのシーズン券の購入件数ということでございます。今シーズンも2月末までと



なりますと、もうほとんど実績だろうと考えておりますが、過去3ヶ年間、すべて小学生、中学生はございません。すべて小学生でございましてそれぞれ1枚ずつ1件ずつでございます。全体としては今シーズンが17件17枚、昨シーズンが12件12枚、一昨年が9件の購入でございました。それから、大変申し訳ありませんが、500円の割引というちょっと予告がなかったものですから、ちょっとそちらの調べしておりませんので、また調査して報告をさせていただきたいと思っております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。聞いていただいたとおりの数字です。それで、議会報告会の方で「若桜町の小中学校はただにしないといけん。」というような意見もいただいております、また、1年前と同じような質問をさせてもらっているんですけど、やっぱりただというのはどうかなというふうに思っていて、シーズン券が半額助成くらいしていただけたらなというふうに思ったりしているんですけど、今の結果、今の質問の結果と、シーズン券半減免についての教育長の所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。植嶋教育長。

(植嶋教育長) はい。シーズン券についての所見ということでございます。シーズン券につきましては、先程、答弁のとおり町内の小学生の購入、ほとんどないというような現状でございます。景気の低迷などによりまして、全体的なスキー人口が減少しているということでございますし、スキーでは他のスポーツと比較しましても親としてやや高額な経費が必要なことなども少ない理由ではないかと考えております。本年1月に開催されました鳥取県中学校総合体育大会スキー大会におきましては、若桜中学校が初めての男女総合優勝という快挙を収められまして、教育委員会といたしましても大変嬉しく思っているところでございます。若桜町の自然や施設を活かした特色のある取り組みといた

しまして、小中学校でのスキー遠足やスキー教室では、先程もございましたがリフトの無料と、また町内の児童生徒につきましては、1日券の割引をいただいているところでございます。

児童生徒の減少も去ることながら、最近の傾向としましては、先程申し上げましたがスキー離れが進んでいるというような現実として捉えておりまして、子どもたちの冬のスポーツ推進を図る上でも、若桜町独自の取り組みとして、町内の児童生徒のシーズン券購入者に対して補助するなどの支援策はどうかというふうに思っておるところでございます。リフトの運営状況等も十分に考慮しなければなりません。が、地元の小中学生には、自然豊かなスキー環境を提供して、スキーの楽しさ、自然とのふれあいを通して心身ともに健全に育てる意味でも、このような取り組みが教育委員会といたしましても検討ができたらなというふうに考えております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。この間の日曜日なんですけど、3月11日のわかさ氷ノ山スキー場感謝祭というのが行われましたんですが、やっぱり地元の子どもたちもほとんど見かけない状況でした。本当に残念だなというふうに思ったところですし、やっぱりスキー大会をしても出場、地元の出場者が少ないというようなこともあります。でも、ちょっと若桜小学校のスキー教室のちょっとお手伝いをさせてもらったんですけど、そのときにも声かけ次第ではなんか大会に参加してもよさそうな子どもたちがたくさんいました。もし、こういったシーズン券の半額助成という、本当先程の質問と反対で、本当に雪を逆に逆手に取った良いところの方を取った特色ある施策だと思いますので、進めていってもらえたらなというふうに思います。

では、最後に施政方針について質問をさせていただきます。1つ目で、魅力あるまちづくりについてで、氷ノ山においてはふれあいの里

の広場を芝生化して小中学生、高校生、大学生等の運動クラブの誘致にも努めてまいりますということでしたけど、具体的にはどこの広場を想定されているか、教えてください。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。平成24年度事業として考えておりますのは、氷太くんの奥にあるグラウンド、わかさ氷ノ山スポーツ広場を鳥取方式の芝生化にするよう計画しております。このグラウンドには毎年夏に大学の合宿などに利用していただいておりますが、現在では芝生のグラウンドで競技が行われるのが普通でありまして、利用者からも要望も強いものがございます。また地元のグラウンドゴルフ協会からも、若桜には芝のコースがないので、ぜひ作ってほしいという要望もいただいているところでもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。では、その芝生化をすることで、どれくらいの集客増を想定されておられるのかを教えてくださいと思います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。グラウンドの芝生化については、先程も答弁しましたが、近年氷太くんを利用するサークル団体などから多々要望が挙がっている状態であり、スポーツ合宿を誘致する際には候補地の選定要素の1つにもなっております。実際グラウンドを利用している団体としては、夏頃に大学のクラブ合宿でラクロスやフットサルなどがありますが、今以上に快適に活動していただけるものと考えておりますし、今後は芝のグラウンドをPRすることによりまして、高校、大学のクラブ活動の誘致も進むことを期待しております。また、氷ノ山では秋の集客が弱い面もございますので、新たな運動クラブの誘致や地元の方がグラウンドゴルフなど活用していただけるものと思っております。具体的な集客数までは集計しておりませんが、多くの方にお出でいただき

たいと、そのような姿勢を持っておるところでございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。氷太くん奥のグラウンドということで、私自身も芝生化については本当に賛成派なので、していただけたらいいんですけど、なかなかあそこは見えにくいところですし、なかなか本当に増につながるのかなというふうなことを心配していますけど、期待はしたいと思います。でも、そうですね、その芝生化だけで本当にどうかなというのを思っておりまして、さらに氷ノ山整備についての構想があるように察します。小中高、大学生誘致ということで、教育旅行ということになるのではないかなと思いますが、平成23年の11月の鳥取県議会で質問がされています。福田俊史議員がされたんですけど、そこでも横濱教育長の方が、教育旅行の誘致ということを発言されていましたが、町長の所見を伺います。

(岡本議長) はい。答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。この間も教育旅行の先生がたが25人程氷太くんに泊まっておられまして、やっぱり東部で130人ぐらい泊める場所がないと言われるんですよね。ですから、そういう面でここは大きな魅力もあるというお話もされておりまして、これから私たちもどんどん伸びるんじゃないだろうかなということも思っておりまして、そういう面での誘致も考えていかないといけんという具合に思っておるところでございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。では、教育旅行の先生方が来られて、今後130人泊まれる場所をということ。そうですね、本当に山の秋のお客さんが少ないということですので、グリーンシーズンに、本当にいかにお客さんが来ていただけるかというのが課題になるのかなというふうに思っています。先程もディズニーランド式って言いましたけども、ちょっとずつ

開発していってもらって、さらなる集客が見込めるようにしていただけることを期待して、質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。